

令和2年度学校自己評価システムシート(東邦音楽大学附属 東邦第二高等学校)

目指す学校像	・音楽芸術の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目指す
本年度の重点目標	1.確かな学力の育成(音楽活動を始め諸活動で生きていく知識・技能の習得を図る)、豊かな人間性の涵養、健やかな体の育成。 2.基本的生活習慣の確立(挨拶礼法、綺麗な言葉遣い)、授業規律の確立、思いやりのある人格形成。 3.進路指導(高大接続を基本とした音楽の一貫教育の充実)。 4.演奏活動・ボランティア活動(音楽活動を通して、積極的な地域貢献活動への参加(ボランティア活動)と舞台芸術。(プロのオペラ団体との共演)への意欲的な取り組み)。

※学校関係者評価とは、最終回の学校評価懇話会で、学校自己評価を を踏まえて評価を受けた日とする。(実施日令和3年3月17日)
学校関係者：4名

領域	評価項目	年度目標			年度評価	
		現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
新型コロナ感染症下での学校活動・学習活動	○基本方針 新型コロナ感染症に対する、生徒の安心・安全を第一優先とする学校生活・学習活動を県、県からの指導を踏まえ、如何に学校として対応していくかを多方面から検討していった。その際、保護者との連携を密に、常に理解・協力の下に推進していった。	・新型コロナウイルス感染症による影響と対策 ・4月7日(火)入学式、始業式を実施。 ・4月8日(水)『緊急事態宣言』が発令され、この日より臨時休業となった。 ・生徒・保護者に対しては家庭での感染症対策を喚起した。 ・学校より緊急連絡メールで、家庭での学習活動の具体的な方策を検討中であることも伝えた。	・家庭での具体的な2つの学習活動を提示した ①『ズーム』によるオンライン授業の実施：学内の送信機器の準備と各教科担当者へのズーム使用の指導と各生徒の家庭内における受信環境の調査と具体的な受信操作の指導を電話、メールを利用して行った。 ②5月18日(水)よりオンライン授業開始。 ③①と並行して、『主要五科目』『一部の音楽教科』『家庭学習課題』を教科・科目間の教員との連携をもとに準備し、学校より各家庭に5月18日(水)に郵送した	・オンライン授業と家庭学習課題の実際 ①『ズーム』による授業は、本校としては初めての実施であったが、主要五教科と一部の音楽教科に限定しての実施ではあったが、それぞれの教科科目の特性に合わせての教材作り、授業目標の設定、対面授業とは異なった授業展開の工夫の検討に時間を要した。更に、送信、受信の不具合も時々発生した為、その都度と不具合の解決をしながら実施した。 ②『家庭学習課題』の進捗状況は担任から生徒と電話、メール等で確認しながら指導した。5月29日(金)を提出期限とし、それまでに完了させ、その後学校へ郵送させた。	・オンライン授業と家庭課題学習の達成状況 ①オンライン授業は対面授業と異なり、学習効率には限界があることを教員は認識する。それを補う方策を検討・実施したものの、生徒の学力差に起因する解決策には苦慮した。 ②家庭課題学習は概ね生徒全員が期日までに提出された。しかし、その内容には生徒間での基礎学力の差が顕著に表れていた。今後の予定： 6月1日(月)より、『学校再開』とした。 6月4日(月)より、『分散登校』を実施した。 6月5日(金)より、全面的に授業再開となった。 1学期の終業式は7月31日(金)とした。 <small>※学期終業式は7月31日(金)とした。</small>	・3学期始業式は1月8日(金)に行った。その後修了式3月19日(金)までは平常時の学年暦となった。修了式が終えたこの時期に改めて次年度への対応策を下記の様に検討した。 次年度への課題：新型コロナ感染症は、変異株の発生など、今後も感染拡大、緊急事態宣言の発令など危惧されることが多い。生徒の安全・安心の確保の為に、学校・家庭が連携し、その感染予防が最重要課題となるとは十分予測される。音楽科高校としてリスクは多く、対面でのレッスン、合唱、ウインドオーケストラの授業などでは、常時マスクの着用、検温、消毒、換気、シールド、アクリル板、三密回避など、徹底した安全対策を施した中での教育活動を実践していく。
	○今年度は、新型コロナウイルス感染症による『緊急事態宣言』の為、通常4月に行われるべき、①新年度のクラス運営方針の設定、②具体的な指導計画の策定には、円滑な準備がしかなかった。特に新入学生徒にとっては、4月に通常のオリエンテーションが実施できなかった。そのため、担任、生徒、保護者との連携が取れない状態での新学期の開始となったため、クラス経営上多くの問題を抱えたスタートとなった。	・『緊急事態宣言』下での『学習活動』方策 に対して緊急にその対策を検討した。学校まず、学校として『教育活動』基本と生徒の家庭での学習課題を如何に結び付けていくかの具体案を検討した。まず、一般的な方策として『オンライン授業』を実施した。それに、『オンライン授業』をより効果的にホローするための『家庭学習課題』を作成し郵送した。この課題は終了後、『その学習状況を学校として把握』、その後課題達成状況を踏まえ各生徒にフィードバックして復習させた。また、更に、それを前提に次回『オンライン授業』を実施。そして、次の段階として『主要専攻のみのオンラインレッスン』の実施の可能性を検討していくこととした。	具体的に、『ズーム』による授業に於いて、学校側の送信機器の準備に予想以上の時間を要し、更に、生徒の具体的な受信環境も調査してみると様々な状況が明らかとなった。生徒側からは、受信指導を行ったものの、上手(操作)が出来ない、受信が途中で途切れてしまうなどの不具合の発生が数件見られた。 一方、学校側は、教員が今までの十分な研修を受けていない状態なので、やはり、円滑な授業展開が出来ているかが懸念された。家庭における『課題学習』は新たな分野、領域での十分な学習指導が行われていない中で、多くの課題が残った。	・両面通行の『オンライン授業』は授業の前提としての、生徒の家庭での健康状況等を把握する上での意味も大きかった。授業効率としては、各科目の担当教員が多大な準備をして授業に臨んだものの、その全てをやり逃げられず、生徒の反応も画面からの状況では把握しにくく、決して良好ではなかった。まだまだ『ズーム』での授業の教員側の研究は必要不可欠な部分が、多くの課題が残った。『家庭学習課題』の提出に於いては、殆どの生徒は5月29日(金)までには提出した。しかし、生徒間の『学力差』による課題の出来具合には大きな認められた。	・6月1日(月)より学校は再開となり、授業も分散型授業から始め、やがて、6月5日(金)より全面的な授業・レッスンを再開された。4月、5月に授業が実施できなかったことは、各教科の年間学習指導計画の見直し。改めて新・年間指導学習計画を作成し、それに基づいて授業展開をしていくものとした。尚、一学期は中間試験は実施せず、学期目の期末試験は当初と変更して、7月13日(月)～7月17日(金)に変更した。また『専攻実技』の試験日は9月22日(月)～9月23日(火)に変更。 各教科・科目の授業時間数、レッスン回数の不足に関しては、7月未まで、授業・レッスンを実施することでお離つこととした。尚、年間授業回数、レッスン回数を補う為に、8月24日(月)を2学期の開始日とし2学期以降の学習時間不足への回避を図った。	A ・この新型コロナウイルス感染症の影響は次年度に継続することは明らかである。学校としては、特に『音楽科』としては、対面での教育活動がメインであることから、最大限の対策を講じ、『学校に於ける教育活動を止めない』を第一の教育活動を指針として推進することとした。特に、感染症対策の具体策としては、シールド、アクリル板の使用、生徒間のディスタンスの十分な確保、定期的な換気(サーキュレーター等の積極的な使用)等、具体的なそれぞれの実技関係の教科・科目に関しては、政府及び県のガイドラインを遵守し、生徒達の安全・安心を十分に確保した上での教育活動の推進を図ることとする。また、状況の変化には臨機応変な対応をも必須と考える。
2 生徒指導	○1 基本的生活習慣の確立の指導 ・挨拶礼法 ・綺麗な言葉遣い 2 授業規律の確立 ・時間厳守 ・下校時間の徹底 ・個人所有物の管理 ・携帯電話の規律ある使用方法 3 思いやりのある人格形成	1.基本的な生活習慣の確立 ・挨拶礼法～概ね確立されているもの、まだ完全ではなく継続した指導で徹底を図った。 ・綺麗な言葉遣い～教員に対するけじめのある言葉遣いと友人間との言葉遣いとの使い分けの指導が必要な生徒が見受けられた。 2.授業規律の確立 ・『時間厳守の指導』は全学年・全員遅刻0を目標とした。 ・下校時間については、5時完全下校も同じ目標として、その徹底を図った。遅刻0はなかなか指導が難しい状況が或るもの継続してその指導に取り組んでいた。 ・個人所有物の自己管理に関しては生徒の机上の整理整頓が出来ていない状況が見受けられ、時として教科書、ノートの紛失が見られた。 ・本校での携帯電話の指導：秩序ある使い方の指導をHRや全体集会で指導しているが、徹底できていなかった。また、メール、ライン等の不適切な使用による生徒間のトラブルも時々見受けられる現状があった。	1『下校時間の徹底』は昨年度からの指導課題でもあり、ほぼ徹底されたつづも、時々指導の基準を示していけない、元の規律のない状態に戻ってしまう為、継続した指導により、良い意味での『習慣化』を図ることを目標とし下校指導をしていくこととした。下校時の生徒の安全・安心を確保するためにも、必要不可欠な課題であった。 2 個人所有物の自己管理の徹底を図るために、毎日放課後の校内巡視の際、HRの生徒の机上の整理整頓の状態をチェックする必要性があった。 3 今年度、生徒の安全、保護者の安心を学校として確立する為に、川越警察生活安全課の協力により『防犯講話』『薬物乱用防止教室』を計画し生徒への注意を喚起させていくことを計画した。	・1『下校時間の徹底』に関しては、生徒指導主任と日直教員との連携で毎日継続指導していく中で、徐々に改善が見られた。ただ、本校は音楽科であり、実技レッスンが時として下校時間後に終了する場合もあり指導の難しさがあった。 2『個人所有物の自己管理』については、毎日の教員による下校指導と運動させての指導の結果として、改善が徐々に認められた。また、教室内の整理整頓においては、生徒個人の認識に温度差があり中々改善に苦しんでいた。 3『防犯講話』『薬物乱用防止教室』での講話を通して、生徒の登下校時での安全確保、又、薬物の危険性に対する生徒達の認識に変化が見受けられた。	・1 基本的生活習慣の中で『下校時間の厳守』は学校として総力を挙げて、基本的な学校生活の規律の一つとして取り組んできた。新型コロナウイルス感染症の対策の一つとして、通学電車が空にならない時間帯での下校を促していた。 2 生徒個人の机上の『個人所有物の自己管理』については、毎日放課後、担任による整理整頓も関わらず、徹底させるにはまだ課題が残った。 3『防犯講話』『薬物乱用防止教室』での講話を通して、生徒の登下校時での安全確保、又、薬物の危険性に対する生徒達の認識については、これからも継続して指導していくものとした。	・1『時間厳守』はこれからの実社会におけるキャリア教育の根幹となる部分で、『基本的な生活習慣の確立の最重要課題』の一つとなり、継続して根気よく指導していくことが不可欠である。 2『教室内の整理整頓』はそのクラスの『学習環境』に影響が大きく、来年度も継続指導の必要性は認められる。 3 来年度は再度『携帯電話の安全教室』の開催を計画し、SNSが日々変化している現状の中で、生徒間の誹謗・中傷の原因となる可能性が大きく、生徒の安全・安心な学校生活を確保するため、更なる細部に渡る指導の必要性がある。
	○ 高大接続という一貫した音楽教育システムを実践することで音楽芸術の探究を目指す。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、高大接続(音楽を通した一貫教育)を目指した『大学・短大進学講座』(4月、5月に開催予定されていたものは延期となった。附属高校生には、まず大学HPにより大学・短大の教育方針の理解を促し、感染状況をにらみながら安心・安全を第一に進路指導を推進していくこととした。	・秋に向けての、①系列大学・短大教員による『大学・短大進学講座』(附属高校生に大学・短大の教育の内容の理解と、将来大学・短大で自分がどの分野を専攻していくか、更にもう一つの力を身に付けて社会と関わりつつ行くかを検討する機会を得られること。同時に大学生とのコミュニケーションを図ることで、大学生生活の様子とキャリア教育の実体験の紹介、附属高校生には現実の大学・短大の様子を理解する良い機会となることとして、良い機会となっていること。)と②『大学・短大体験授業』(生徒達が高大接続の教育の意義を直接大学・短大の授業を受講することで直接経験することが出来る)の実施を附属高校と大学・短大とで連携を取りながら計画して行くこととした。	・系列大学・短大への進路指導という観点から、『大学・短大進学講座』『大学・短大体験授業』が、各学年に於いて、どのような位置付になっているかを正確に検討しつつ、附属高校生にとって『音楽』という芸術を幅広い見地から捉える為に『大学・短大進学講座』『大学・短大体験授業』の位置づけを再確認しつつ、更にその結果と進路指導とをリンクさせていくことを検討していった。	・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた時期には時間差があったものの、どこにかスケジュールの調整を行い、『大学・短大進学講座』『大学・短大体験授業』を開催するに至った。卒業生(附属高校から系列大学・短大へ進学して卒業した卒業生)が現在の様子を音楽を生かして社会との関わりを持っているかが具体的に紹介されている。毎年、卒業生の中から、中学校音楽科教員、自衛隊音楽隊の隊員、音楽療法を実践している施設職員、演奏活動に従事している卒業生、音楽教室指導者などの中から、その年に於いて、様々な職業に関わるためのわっている卒業生の方々からの具体的な具体的なアドバイスは、高校生のキャリア教育の第一歩となっていた。	A ・来年度は、今から附属高校と『入試広報センター』が連携を取りながら、『附属高校生と保護者に焦点を当てた特別なオープンキャンパス』を実施することを具体的に検討を始めた。勿論時期、内容などの詳細なことは生徒達のニーズと大学・短大、入試広報センターのスケジュール等を調整する。今まで以上に『大学・短大の本質、特質』を生徒・保護者にも提示できるように準備を推進していくこととする。そして、大学・短大と附属高校との密な情報の共有を前提に、生徒一人一人の寄り添った進路指導を進めて行くこととする。
4 演奏活動・ボランティア活動	○学内・学外に於いて、多様な形態による『演奏活動』を実施する。ソロの演奏により培われた演奏技術・表現力をベースとした、アンサンブル、ウインドオーケストラ、弦楽合奏へ『総合的な音楽力』へと発展させていく。 オペラ彩主催のプロのオペラ団体の公演への出演。東邦音大・短大・東邦第二高等学校の生徒・学生は、『合唱』で参加。	・今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響の為、あらゆる演奏会が延期、未定、中止となつていくことが懸念された。各学校より演奏者を選抜して、本校音楽ホールでのソロの演奏会【中止】 附属中学校・高等学校・第二高等学校合同合唱(2.11.1.実施) 附属中学校高等学校第二高等学校合同演奏 ・各学校ウインドオーケストラによる合同演奏(2.12.12実施) オペラ彩主催：オペラ公演『ナブッコ』への出演【未定】	・例年、オペラ彩・合唱団として高校1,2年生10数名が合唱のメンバーとして出演していた。【未定】 例年、8月より土曜日、日曜日を中心に稽古が始まり、生徒達は全くと初めてオペラに挑戦することになっていた。勿論、全体の稽古以外に第二高校の専攻専任教諭が放課後等、学内で合唱(基礎練習)の指導をし、それを全体練習に生かせるようになっていた。【練習開始・未定】	・例年では、10月から立ち稽古が開始され、プロで活躍されている東邦音大の佐藤泰弘氏が参加していた。プロの中で練習は、生徒達に相当の緊張感を与えながら演技と歌に意欲的に取り組ませいた。【練習開始・未定】	・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた時期には時間差があったものの、どこにかスケジュールの調整を行い、『大学・短大進学講座』『大学・短大体験授業』を開催するに至った。卒業生(附属高校から系列大学・短大へ進学して卒業した卒業生)が現在の様子を音楽を生かして社会との関わりを持っているかが具体的に紹介されている。毎年、卒業生の中から、中学校音楽科教員、自衛隊音楽隊の隊員、音楽療法を実践している施設職員、演奏活動に従事している卒業生、音楽教室指導者などの中から、その年に於いて、様々な職業に関わるためのわっている卒業生の方々からの具体的な具体的なアドバイスは、高校生のキャリア教育の第一歩となっていた。	・今年度のオペラ彩主催、オペラ『ナブッコ』は中止により、生徒達は残念な気持ちはあるものの、すぐに来年度も出演依頼が来ており、音楽科の生徒達にはこれ以上の魅力であり、日常の学習では味わえない貴重な体験を得られるチャンスである。他の学習行事とのバランスを考慮しながら前向きに生徒の参加を検討していくこととする。来年度は、『カルメン』の公演が予定されている。
	○ボランティア活動とその具体化についての再検討をする。	・ボランティア演奏会の実施。【中止】 南古谷病院でのミニコンサート【中止】 帯津三敬病院でのミニコンサート【中止】 南古谷病院でのミニコンサート【中止】 (今後のボランティア活動の時期と内容活動範囲は状況を見て検討することとした)	今後のボランティア演奏会の実施の可能性を鑑みて計画を作成しておいた。 演奏者は道考し、演奏形態・演奏曲目は演奏会の見通しがついた段階で検討することとした。	・生徒達(生徒会を中心に)は、改めて『ボランティア』とは何か、その活動とはどのようにあるべきかを考察させていった。	・生徒達はこれまでのボランティア演奏会を通して、ボランティア活動の社会的意義と色々な形での演奏会の在り方を学習してきた。その様々な活動が評価されて、2012年ボランティア支援団体『国際ソロプチミスト埼玉』からの認証を受けて以来、毎年その活動には更に意欲的に取り組んでいる。 しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりボランティア活動は実施することが出来なかったが、例年度の実施を目指す。	A ・新型コロナウイルス感染症の影響を全く回避できないことが予測できることから、『ボランティア活動』は『演奏会』のみに限定せず、様々な形態を検討し、更なる充実と推進に努めるとともに、地域貢献への積極的かつ意欲的な活動を検討していく。 来年度は、『国際ソロプチミスト埼玉』に於けるボランティア活動への参加を予定されている。【来年度春季にディスカッションの前段階の論文提出参加の依頼が来ている】
	○地域貢献を目指した演奏活動。	・南古谷ウインドオーケストラの活動：通常は、毎週土曜日午後、近隣の中学生、高校生、一般社会人と本校のウインドオーケストラから有志メンバーが参加して、地域吹奏楽団体として練習している【当面活動休止】。 南古谷ニューイヤーコンサート【中止予定】 (通常は南古谷地区の小・中・高等学校、また地域住民との活動)	・南古谷ウインドオーケストラの活動。【当面休止】 ニューイヤーコンサートin南古谷。【中止予定】 (第二高校ウインドオーケストラと本校の『合唱団』～本校の教育課程に位置付けられている～が授業の発表演奏として参加予定だった)	・毎週土曜日午後の東邦音楽大学での地域の中学生・高校生・一般社会人から構成されている、南古谷ウインドオーケストラの練習(演奏)は、『地域の音楽芸術に対する意識の向上』に長年に渡って貢献している。【当面休止】	・定例化しているニューイヤーコンサートin南古谷は、例年は地域からの参加団体も増え、更なる充実が図られている。同時に、地域貢献の意義を本校の生徒達により一層理解させている。【今年度は中止決定】	・今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。『南古谷ウインドオーケストラの演奏活動』、『ニューイヤーコンサートin南古谷』は、『地域に根ざした音楽への意識の向上』を目標とした活動である為、来年度は今までにない充実した演奏活動・演奏会を目標に取り組みしていくこととする。
○埼玉県近郊の『音楽系高等学校』との合同演奏会の実施。音楽専門教育の活性化を図る。	・音楽教育の活性化を図る為に近隣の音楽系高等学校が参加して、『第10回北関東甲信越音楽系高等学校合同演奏会』を6月15日(土)に開催する予定だった。(東邦第二高等学校主催)～新型コロナウイルス感染症の影響により中止を決定する。	・『第10回北関東甲信越音楽系高等学校演奏会』(6月15日土曜日)【中止】	・『北関東甲信越音楽系高等学校演奏会』(本校音楽ホールで各校の代表演奏者による演奏会)に関しては、その意義と参加校の拡大、演奏形態の見直しなどを検討しつつ、より発展的な演奏会の開催を目指し検討することとする。	・演奏会を通して『各学校の演奏した生徒達は、それぞれが日々の自分の演奏のテクニック・表現力などを振り返ってみる良い機会となった。来年度は、『音楽系高等学校間の親睦を図る』という基本方針のもとに、より良い演奏会の形態と幅広い参加校の拡大を目標に来年度開催の準備を進めていくこととする。	・『第十回北関東甲信越音楽系高等学校演奏会』は来年度6月12日に開催する予定。学校間の交流を図りつつ、生徒達の演奏技術と音楽性の向上に更に良い演奏会を計画して行くこととする。	

学校関係者 評価
学校関係者からの意見・要望・評価等
○高い評価を受けている項目 1 学校経営全般：学校は、建学の精神に基づき高大接続(附属高校→系列音大・短大)を基盤とした一貫教育を推進している。 2 教育課程全般：学校は、教育方針に基づきOne to One教育(特に専攻実技に於ける、個の能力・技能に応じたレッスン)を推進している。 3 生徒指導全般：少人数制を生かした全教職員の共通理解・認識を生かした生徒の基本的な生活習慣の習得、集団生活での規律の確立に取り組んでいる。
○改善要望項目 1 公開授業：年間指導計画に組み入れて実施して欲しい。 2 音楽専門教科と普通教科・科目をよりバランスよく習得できるように工夫して欲しい。新学習指導要領に基づき、主体的な学び、情報運用能力、問題解決能力、想像力の育成を図る授業形態を構築して欲しい。
○学校として次年度に向けた対応策 1 公開授業は計画的に行事予定に位置付け実施できるように検討する。 2 学校HPは教育活動・学校生活が具体的に分かるようにしていく。 3 年間行事予定の見直しと検討～諸行事と定期テスト・実技試験との関係(テスト準備が充分に取れるように)を検討する。